

22日 水曜

I サムエル

25:36 アビガイルがナバルのところに帰って来ると、ちょうどナバルは、自分の家で王の宴会のような宴会を開いていた。ナバルが上機嫌で、ひどく酔っていたので、アビガイルは明け方まで、何一つ彼に話さなかった。

25:37 朝になって、ナバルの酔いがさめたとき、妻がこれらの出来事を彼に告げると、彼は氣を失って石のようになった。

25:38 十日ほどたって、【主】はナバルを打たれ、彼は死んだ。

25:39 ダビデはナバルが死んだことを聞いて言った。「【主】がほめたたえられますように。主は、私がナバルの手から受けた恥辱に対する私の訴えを取り上げ、このしもべが悪を行うのを引き止めてくださった。【主】はナバルの悪の報いをその頭上に返された。」ダビデは人を遣わして、アビガイルに自分の妻になるよう申し入れた。

25:40 ダビデのしもべたちはカルメルのアビガイルのところに来て、彼女に、「ダビデはあなたを妻として迎えるために私たちを遣わしました」と言った。

25:41 彼女はすぐに、地にひれ伏して礼をし、そして言った。「さあ。このはしのためは、ご主人様のしもべたちの足を洗う女奴隷となりましょう。」

25:42 アビガイルは急いで用意をして、ろばに乗り、彼女の五人の侍女を後に従え、ダビデの使者たちの後に従って行った。彼女はダビデの妻となった。

25:43 ダビデはイズレエルの出であるアヒノアムを妻としていたので、二人ともダビデの妻となった。



25:44 サウルはダビデの妻であった自分の娘ミカルを、ガリム出身のライシュの子パルティに与えていた。

ダビデが喜んだのは、「このしもべが悪を行なうのを引き止めてくださった」ということでした。「やり返すことができた」、「すっきりした」などということではない点に注目しましょう。復習やさばきは主の仕事で、主の權威によってなされます。もしも何か嫌なことをされたとしても、自分でやり返すようなことがあれば、たとえそれがうまくいったとしても、相手をへこませることができたとしても、周囲が賛同してくれたとしても、それは主の権限を奪っていることになるのです。ダビデを模範にしましょう。

アビガイルはまだ王に狙われているダビデを助けました。ダビデが主の御心行っていること、主が彼を王とする計画がある以上必ずそれを成し遂げられるのだ信じていたからです。雲行きや大勢を見て、自分の安全な方を選らぶのではなく、主の御心を第一に決断したのです。それが信仰者のあり方です。また勝利への道なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

